

な仕掛けを施している。授業の冒頭に学習の「めあて」を明示し、常に「今日学ぼう」とが子ども達の目の前にある状態で授業を進行する。授業の中では、子ども同士での話し合い・教え合いという「確認し合い」作業によって体得を。そして最後には必ず「こんなことを学んだね」と先生が口に出して伝える。「わかった」「できた」という実感により、学ぶ意欲を伸ばしていくのだ。



2年生は、牛乳・ミートボールのカレー煮・コッペパン・アーモンドサラダ。7年生は牛乳・チキンカレー・ごはん・福神漬け・ハムステーキ・かぶのサラダ

2年生が「食缶方式（食缶に入れて届けられた給食を教室で配膳）」であるのに対して、7年生は「ランチボックス（一人分ずつ盛り付けられた状態で届く）」と、全く異なる

給食交流の様子



体育大会と一緒に競技をしたこともある2年生と7年生は、「給食交流」も2回目。今回は給食後の昼休みも中庭で走ったり、カードゲームをしてグループごとに遊んで交流したそうだ

すが、小中一貫教育の実施に対し、「中学生が小学生をいじめたりしないか」と懸念する声もあつたという。蓋を開けてみたら、小学生は今までと変わらず生活していて、中学生は優しい面が出てお兄ちゃん・お姉ちゃん的な動きをしていましたね」と西留先生。少し校舎を歩けば、中学生がそとと小学生に道を譲ったり、一緒に手を繋ぎながら話すがあつた。学園の特色でもある異年齢の交流は人間力・学力向上の後押しになっている。



通りがかった体も大きな9年生に、何のためらいもなく話しかける1年生。しばらくこうして会話を楽しんでいた

2月1日の「ランチルーム」では2年生・7年生（中学1年生）が食事を共にしていた。「それ美味しそう」「パンないの？」「互いの料理に関心を寄せつつ、愉しげに、少し照れくさそうに頬張る姿が微笑ましい。中には、牛乳の「早飲み競争」を挑む2年生も。「勝負しよう」と言った途端に「スタート」と牛乳を飲み始めた。「あ、ずるい！」と笑いながら7年生も牛乳を手取る。出遅れたもの、そのこぼれは上級生、瞬間に飲み干した。あまりの早さに驚いた2年生は牛乳を飲む手を止め、目を輝かせて7年生を見つめていた。この「給食交流」に加え、9年生が1年生に英語の楽しさを伝える「交流授業」も小中一貫校ならではの取り組み。「教えること」は身に付く学びでもあり、相互に好影響を与えている。

思いやりの心・敬う心を自然と育む異年齢交流

2月1日の「ランチルーム」では2年生・7年生（中学1年生）が食事を共にしていた。「それ美味しそう」「パンないの？」「互いの料理に関心を寄せつつ、愉しげに、少し照れくさそうに頬張る姿が微笑ましい。中には、牛乳の「早飲み競争」を挑む2年生も。「勝負しよう」と言った途端に「スタート」と牛乳を飲み始めた。「あ、ずるい！」と笑いながら7年生も牛乳を手取る。出遅れたもの、そのこぼれは上級生、瞬間に飲み干した。あまりの早さに驚いた2年生は牛乳を飲む手を止め、目を輝かせて7年生を見つめていた。この「給食交流」に加え、9年生が1年生に英語の楽しさを伝える「交流授業」も小中一貫校ならではの取り組み。「教えること」は身に付く学びでもあり、相互に好影響を与えている。



巻頭特集

未来へ繋ぐ、9年間の実りある学び

ほそごう学園

施設一体型小中一貫校として平成27年度に開校し、小・中学生が共に学ぶ【ほそごう学園（池田市立細郷小学校・池田市立細郷中学校）】を訪ねた。



メディアセンター



図書館・パソコン教室が併設するこの部屋は「メディアセンター」と呼ばれる。小学生・中学生、様々な年齢を対象とした書籍が充実。背丈の違いを考慮して書棚の高さにも工夫を。司書さんの意見を取り入れたそうだ



体育大会

体育大会も9学年で実施。小学生の競技で中学生が審判を務めることも。旧・池田市立細郷中学校の頃より続く、中学生による伝統の応援合戦は迫力満点。小学生は驚いた様子だったとか

ほそごう学園のこんなところが珍しい!

下駄箱

仕切りや扉のある収納タイプではない、一風変わった「オープンな」下駄箱。見られる意識もあつてか、どの靴も綺麗に並んでいた。空間も広々!



ほそごう学園 学園長 西留清信先生

子どもたちの自己実現に繋がる9年間の一言した教育を

駆け回る小学生の元気な姿に頬が緩む。と、思う間もなく、落ちついた様子の中学生が、すれ違いざまに折り目正しく挨拶をしてくれた。ここ、「ほそごう学園」は小・中学生の全9学年が同じ校舎の中で過ごす。池田市内初の施設一体型小中一貫校だ。「池田市立細郷小学校」、「池田市立伏尾台小学校」、「池田市立細郷中学校」の3校が一体となり、伏尾台を含む細郷地域の総称として明治時代まで使われていた地名「ほそごう」を冠する「ほそごう学園」が平成27年4月に開校。自ら進路を切り拓き、選択できること、をゴールに見据え、9年間の一貫した教育の中で学力・生きる力を育む。9学年を前期（1～4年）、中期（5～7年）、後期（8～9年）という3つのステージに分け、子どもの発達に合わせて指導方法を工夫。子ども達一人ひとりが主体的・協働的に学習に参加できるよう、研究テーマに「ユニバーサルデザイン」の視点を据えた。

「どの子にも」わかった、「できた」という実感を持ってもらえる授業を、統一して作っていくこうと、先生方と話しました」と学園長・西留清信先生。先生方は子ども達が能動的に授業に取り組めるよう、様々な

地域による支えもまた、大きい。伏尾台コミュニティ推進協議会が2008年に導入した「青パト（伏尾台安全パトロール隊）」は、小学校登校日に2、3時間の巡回を行っている。この活動に付随して朝の登校時は正門前や横断歩道付近の見守りも。「今日は○○ちゃんがしんどそうだった」「ケガをしていた」と学校に情報が寄せられることもあるそうだ。安全だけでなく、様子まで気にかける愛情深い眼差しが、子ども達を常に包んでいる。また、卒業生やPTA、地域住民による支援組織「地域支援本部」の活動「OSP」では、始業前の時間を使って7・8・9年生を対象に「朝の学習会」を実施。学習プリントを用意したり、直接勉強を教えたり、子ども達の学習を支援する心強い存在だ。

4月からは特認校となり池田市内のどの校区からでも入学・転入学できる同学園。学校運営協議会（保護者や地域住民等で構成）に著名人や学識経験者も加わり、「地域とともにある学校づくり」の拡充を目指す。「未来へ繋ぐ、実りある9年間の学び」の支援の輪が、「ほそごう」から池田全体に広がっていく。

取材協力

ほそごう学園
住所：池田市伏尾台 3-14
TEL：072-751-0731
HP：http://www.school.ike.da.osaka.jp/hosogou-ac/



「OSP (Ours School Project)」による「朝の学習会」の様子。火・水・木の朝 7:35～8:15 に実施。約20名の参加がある

学習支援に見守りに。地域でつくる「私達の学校」